令和６年度　函館大学　一般選抜Ｂ日程　試験問題

『国　語』

※　解答はすべて解答用紙に記入すること。

【１】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

（前省略）

行動経済学は２０世紀半ば以降に急速な発展をａ　トげた新しい学問で、３人のノーベル賞受賞者を出しています。

２００２年、「行動経済学の父」と呼ばれるダニエル・カーネマンがノーベル経済学賞を受賞。共に研究していたエイモス・トベルスキーは残念ながら亡くなっていましたが、もしも存命だったら２人揃って受賞していたことでしょう。

イスラエル生まれの心理学者であるカーネマンはカリフォルニア大学バークレー校で博士号を得た後、主にアメリカで研究を続け、１９７９年「プロスペクト理論」を発表。のちほど詳しく書きますが、「人間の意思決定は非合理である」という画期的なもので、今日でも行動経済学の核をなす理論です。

次に登場する行動経済学のスターは、２０１３年にノーベル経済学賞を受賞したロバート・シラー。彼は経済学者で、バブル経済を「根拠なき熱狂」とｂ　シテキしました。従来の経済学のように過去のデータを数学的に分析するだけでは市場を理解できない、株式の動きには「人々の心理状態」が影響しているというシラーの理論は、まさに行動経済学です。

さらに次の行動経済学によるノーベル賞受賞者は「ナッジ理論」を確立した経済学者のリチャード・セイラーで、２０１７年にノーベル経済学賞を受賞。カーネマンの「プロスペクト理論」を経済学にさらに結びつけ、行動経済学を広めました。

（後省略）

・「行動経済学の父」であるカーネマンとトベルスキーの専門は心理学
・シラーとセイラーの専門は経済学

行動経済学が「経済学」と「心理学」の融合であることは、この点からも明らかです。

カーネマンは心理学の中でも「意思決定心理学」に注目し、「人間の意思決定の［　ア　］」をｂ シテキ。法則通りにはいかないｃ アイマイで変わりやすい人間心理を、経済学に当てはめたのです。

では、経済学と行動経済学の関係性はどのようなものでしょうか？ごく簡単な概要をまとめておきます。

そもそも現在の経済学の基本は、18 世紀にアダム・［　イ　］によって確立されました。彼は著書『ｄ コクフロン』の中で、

「ｅ 市場経済において、各個人が自己の利益を追求すれば、結果として社会全体において適切な資源配分が達成される」

と主張。これが資本主義経済の中心にある「ｅ 市場」についての［　イ　］の考えであり、

仮に偏りが生じても「神の見えざる手」が働き、うまく調整されるとしました。

また、『d コクフロン』より先に書かれた『道徳感情論』の中で、［ イ ］は「人間にはさまざまなｆ ゲキジョウがあるが、共感する力がある。義務と道徳を知れば正しい行動ができる」と述べています。

このような考えを持つ「経済学の父・［ イ ］」の考えを受けた経済学は、「e 市場メカニズムの中で動く人間も、常に理性的で正しい判断をする」という前提で構築されています。

その後、複雑化するｅ 市場メカニズムを解き明かそうと、マクロ経済学、統計学、金融工学が生まれましたが、経済の研究が行き着く先は数学、つまり徹底した「合理性」の世界です。

［ ウ ］、18 世紀だろうと現代であろうと、時代を問わずｅ 市場経済は完全に合理的ではないことを、私たちは経験として感じています。理由は簡単で、ｅ 市場の中には人間という「非合理な存在」がいるからです。また、残念ながらすべての人が義務と道徳を持ち合わせているわけではありません。さらに、「知っていても間違える」というのは、改めて説明するまでもないでしょう。

「合理的な個人を前提とする伝統的な経済学には限界がある」

そこで人間を理解するために生まれた心理学を経済学に融合させた「行動経済学」が生まれたのは、先に述べたとおりです。

行動経済学が急速に広まったのは、「社会的ニーズ」にぴったりとハマったからでもあり、「①経済学で解決できないことを埋めていったから」とも言えます。

例えば、行動経済学が誕生する以前、政府や企業は新たな政策やプロジェクトを考えるとき、経済学者にアドバイスを求めていました。確かに「合理性」に基づいた貴重な意見を聞けますが、現実とｇ 乖離してしまうこともしばしばありました。

そんな中、行動経済学を使って画期的なアドバイスをしたのがｈ 前述したセイラーと共同研究者のシェロモ・ベナルチ。とてもよく知られているのが「明日のための積み立てをしよう Save More Tomorrow プラン」、略して「スマート（SMarT）プラン」で、行動経済学を世間一般に広めるきっかけとなりました。概略を紹介しておきましょう。

日本は２０歳以上の全国民が国民年金に自動的に加入し、会社員は厚生年金にも加入します。つまり給与天引きで意識もせずに年金を納めます。

一方、アメリカの年金は「自分の意志で加入した人が受け取る仕組み」です。そのおかげで、なんと米国国勢調査局によると、５５歳から６６歳の男女の５割が退職後の蓄えを保有していないという、なんとも②ショッキングな結果が出ています。

もちろん大企業は確定拠出型年金を導入しています。「積立金を多くしておけば、将来たくさんの年金がもらえる」と、企業側は積立額を増やすように従業員に勧めますが、なかなか年金に加入していない人、加入しても増やせない人が多いというのが現状です。

「積み立てたほうが将来の自分のためになるのに、なぜ積み立てないのだろうか？」

合理的な個人を前提とする伝統的な経済学では考えられないこの疑問に答えてくれるのが行動経済学です。

1．イナーシャ（Inertia=慣性）：人間には、面倒なことはやりたがらず「このままでいいや」としてしまう③バイアスがある。このイナーシャのせいで、年金への加入がｉ 億劫になってしまう。

2．損失回避（LossAversion）：人間は、プラスの感情値（道で千円札を拾ったときの喜び）より、マイナスの感情値（千円を落とした時の衝撃）のほうが大きい。だから貯金が１万円増えるより、今月の手取りが１万円減る方が感情のインパクトが大きい。

3．現在志向バイアス（PresentBias）：人間は「今この瞬間」に重点を置くので、退職後の年金をもらう「未来の自分」については他人事のように感じる。だから将来の自分よりも、今の自分にお金を使いたがる。

エ

（出典：相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』SB クリエイティブより作問の都合上、原文を改めた部分がある。）

問１ ア に入る言葉として最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

1．精密さ
2．迅速さ
3．非合理さ
4．正確さ
5．合理さ

問２ [イ]に入る言葉として最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１．リカード
２．ケインズ
３．エヴァンズ
４．スミス
５．トムセン

問３ [ウ]に入る言葉として最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１．したがって
２．しかし
３．ところで
４．それに
５．なぜなら

問４ ①経済学で解決できない理由は何か、最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１．理論が数学で記述され精緻であるから。
２．理論が非合理的だから。
３．市場が完全に合理的であったから。
４．徹底的に「非合理性」の世界を前提として組み立てられた理論であったから。
５．市場の中に人間という「非合理な存在」がいるから。

問５ ②ショッキングである理由は何か、最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１． アメリカの年金が「自分の意志で加入した人が受け取る仕組み」であること。
２． 55 歳から 66 歳の男女の５割が退職後の蓄えを保有していること。
３． 55 歳から 66 歳の男女が５割いること。
４． 退職後の蓄えを保有していない男女が５割いること。
５． 退職後の蓄えを保有している男女が５割いること。

問６ ③バイアスとはどのような意味か、最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１． 人間が物事を客観的に見る性質
２． 人間の判断や行動が偏る傾向
３． 人間が自分の行動を他人と比較する傾向
４． 人間が自分の価値観を疑問視する傾向
５． すべての人が持つ能力や才能

問７ エ の中には、次の(a)から(e)までの文章が入る。文章全体の意味が通じるように並べるとき、最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

(a) 次に損失回避と現在志向バイアスの顕在化を防ぐため、その企業年金は「昇給したら積立率も自動的に増える」という仕組みにしておきます。これなら手取りが減るわけではないので、抵抗なく積立額を増やせます。
(b) このようなバイアスの結果、人間が合理的に考えるとやるべきことなのに、非合理的な側面のせいで、老後資金の確保がなかなか進まない。そんな中、セイラーとベナルチはバイアスをあえて有効活用することを提唱しました。
(c) まずは、イナーシャ。その対策としては、「我が社は基本的に全員、企業年金に加入してもらいます。」というデフォルト（初期設定）を作り、手続きなしで加入できるようにします。もちろん、加入したくない人は「許諾しない意思表示（オプト・アウト）」により加入を回避できますが、人とは面倒くさがりな生き物。大抵の人は、そのまま加入することになるのです。
(d) これは人の行動の引き金とバイアスを理解し、それを敢えて有効に使った、これまで最も顕著な成果を出した実例だと言えるでしょう。
(e) さらに「強制ではなく、いつでもやめられるし、掛け金をいくらにするかも自分で決められます」というルールを設けますが、これもイナーシャの影響で、みんな入社したときに加入した条件のまま変えることはありません。

その結果、自然と少しずつ積立金が増えていく……。

１． (c)→(a)→(b)→(d)→(e)
２． (c)→(a)→(d)→(e)→(b)
３． (a)→(e)→(c)→(d)→(b)
４． (b)→(e)→(a)→(d)→(c)
５． (b)→(c)→(a)→(e)→(d)

問８ イナーシャの例として、間違っているものを選択肢よりひとつ選びなさい。

1．新年にジムに入会し、数ヶ月間は頻繁に通うものの、徐々に訪れる頻度が減っていく。しかし、会員を辞めるのが面倒なため、そのまま会員でい続ける。
2．毎朝ジョギングを始め、それが気に入ったので、毎日続けることにする。
3．銀行の定期預金が満期になったとき、新たな投資先を探すのが面倒なため、そのまま継続する。
4．使わなくなったスマートフォンのアプリを削除するのが面倒なため、そのまま放置する。
5．年金制度への加入や手続きが面倒で、後回しにしてしまう。

問９ 損失回避の例として、間違っているものを選択肢よりひとつ選びなさい。

1．他の商品よりも値段が高いにもかかわらず、有名な会社の製品なので購入する。
2．株価が下落しているにもかかわらず、損失を確定させたくないために売却を避ける。
3．もう利用していないサブスクリプションサービスがあるにもかかわらず、解約すると何か損をするかもしれないと感じて解約しない。
4．新しい家電製品を購入したにもかかわらず、古いものを捨てるのがもったいないと感じて保持し続ける。
5．セールで割引されている商品を、必要でないにもかかわらず「お得感」を逃したくないという理由で購入する。

問１０ 下線部分ａ～ｊのカタカナを漢字に、漢字は読みをカタカナで書きなさい。

【２】次の〔会話文〕は、大学の授業で、３人の大学生（マナト、アスカ、ジュン）が、キャッシュレス決済について討論した時の記録です。この〔会話文〕と、〔資料１〕を合わせて読んで、下の【問】に答えなさい。

〔会話文〕

先生：今日は、最近、大きな話題になってきている、キャッシュレス決済の普及について考えてもらおうと思います。このテーマを議論してもらうにあたって、いくつか話題提供をしておきたいと思います。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあって、世の中では、クレジットカードや電子マネーによる、キャッシュレス決済が猛烈なスピードで普及してきました。

キャッシュレス決済の普及によって、現金、とくに一円玉、五円玉、十円玉などの少額硬貨は、だんだん使われなくなってきたように思います。その使われなくなってきた理由の一つには、銀行などの金融機関が、小銭を ATM や預金口座に入金・預け入れなどをする際の手数料を導入したことがあげられると思います。

これによって、お賽銭として、少額硬貨が大量に投げ込まれる神社や寺院などでは、少額硬貨を銀行などに預け入れる際の手数料が高額になることが話題になりました。

もう一つは、政府のコスト削減の方針があると思います。たとえば、一円玉１枚を作るのに、３円程度のコストがかかっていると言われていますし、五円玉、十円玉も同様に、額面よりもコストが上回っていると言われていますから、政府は発行すればするほど赤字が増えるわけで、少額硬貨の発行数を減らしたいと考えても当然です。

また、少し前のことですが、マイナンバーカードを登録することでキャッシュレス決済でしか使用できないポイントを配布するという事業が行われました。その概要は、〔資料 1〕の総務省の資料で知ることができます。

このように、政府はキャッシュレス決済を推進しているわけですが、だんだんと現金が使われる場面が減っていくことについて、皆さんの意見を聞いてみたいと思います。

マナト：現金は持ち運びが大変だし、何か不衛生な気もします。社会全体としての効率も悪く、皆がスマホを持つ時代になった今、硬貨や紙幣は過去の遺物ですよ。
キャッシュレスにどんどん移行して、最終的には現金を持ち歩かなくてよい時代になって欲しいです。

アスカ：私もキャッシュレス決済中心になるといいと思います。ただ、現金をなくすべきではないと考えます。例えば、お賽銭とか、募金とか、これまで文化や風物詩の一部にもなっていたように思うので、残念な気がします。お賽銭は、銭、すなわち少額硬貨を、神仏に捧げて祈願をするという習俗や文化を示しているわけですし。年末の募金とかも、小さな子どもが、少額でも募金することで、ボランティアの精神が養われてきたような気がします。

マナト：お年玉を電子マネーでもらうとか、好きなアーティストにオンラインで「投げ銭」をするとか、新しい文化も生まれています。お賽銭が小銭ではなくキャッシュレス決済になったら、金額は増えるでしょうから、神社も喜ぶと思いますよ。

アスカ：今の紙幣とか、硬貨にしても、その国の偉人や代表的な建物などが印刷されていて、そこには、その国の文化や高度な偽造防止技術とかが詰まっているわけでしょう。その素晴らしさや重みが、いいなと思います。デジタルの安っぽさとは一線を画していると思います。

ジュン：ユニセフなどの募金活動は、銀行口座からの振込や引き落とし、クレジットカード払いが主流になっているし、クラウドファンディングも現金は受け付けていませんよね。

アスカ：私は現金の良さってあると思うのですが、やっぱりジュンもキャッシュレス推進派ですか？

ジュン：いえ、私個人としては、キャッシュレス決済には問題が多いと感じています。何を購入したのかデータがとられて、何か悪用されそうな気がしますし、セキュリティも心配です。以前、銀行口座から残高をチャージする機能に不具合があって、銀行口座から何十万円も不正に引き出されたという事件がありました。特にQRコード決済は全く信用できません。

アスカ：クレジットカードは一時的な借金だから、使いすぎて返済できなくなる話もよく聞きます。現金ならあるだけしか使わないのに。

マナト：安全性が高いプリペイド式の電子マネーもありますよ。交通系ICカードなら小学生でも持てるし、スマホではないので通信障害でも使えます。

アスカ：そういえば、北海道日本ハムファイターズの本拠地球場「エスコンフィールド」は、構内のすべての売店がキャッシュレス決済のみで、現金は受け付けません。今後は、現金不可のお店が増えるのでしょうか。

マナト：現金は「おつり」が必要で、おつりの硬貨を用意するために銀行に行く手間などを考えれば、決済事業者に手数料を払ってもなお、エスコンの判断は合理的だと思います。

ジュン：私の意見は完全に逆です。電子的な数字が、いつの間にか改ざんされていても、簡単には気づけません。電子マネーの決済会社を信用するかしないかは、私が決められるはずです。キャッシュレス決済を強制されるのは不快ですし、人権を侵害していると言っても過言ではないと思います。

アスカ：エスコンでは、ほぼすべてのキャッシュレス決済が使えたと思います。クレジット、QR コード決済、電子マネーなど、今は２０～３０種類くらいあるのかな？
これだけあればジュンが使ってもいいと思う決済手段もあるのではないですか。

ジュン：政府がキャッシュレスを推進するなら、まずは乱立している決済手段を統一してほしい。中には信用ならない決済事業者も含まれているはずです。私たちの生活を支えるお金ですので、信用こそが第一です。システムの不具合など、一切起こってはならないはずです。

マナト：今は乱立していても、いずれは淘汰されていくでしょう。今の段階では、消費者が選べることが大事だと思います。

先生：だいぶ議論が盛り上がってきましたね。

【問】上の〔会話文〕と、〔資料 1〕を読んで、キャッシュレス決済の普及について、自分の考えを 200 文字以上で述べなさい。なお、解答に際しては、〔会話文〕の学生（マナト、アスカ、ジュン）のだれの意見に近いのか、自分の立場を明らかにした上で論述してください。

〔資料１〕

1 「マイナポイント第2弾」とは？

マイナポイントは、マイナンバーカードの普及や活用を促進するとともに、消費を活性化させるため、QRコード決済や電子マネーなどのキャッシュレス決済サービスで利用できるマイナポイント（1人当たり最大2万円分）を付与する事業です。

マイナポイント第2弾は、マイナンバーカードを新規取得した上で選択したキャッシュレス決済サービスで20,000円までのチャージ又はお買い物をしたかた（マイナンバーカードを取得済みでマイナポイント第1弾でマイナポイントの申込みをしていないかたを含む。）に対するポイント（最大5,000円分）に加え、マイナンバーカードの健康保険証としての利用申込みや、公金受取口座の登録を完了したかたが、それぞれ7,500円分のマイナポイントを受け取ることができます。

政府広報オンライン（gov-online.go.jp）